

## 令和2年度 西東京市立田無小学校 学校関係者評価表

学校教育目標	◎よく考え工夫する子ども ◎仲よく、助け合う子ども ○よく働き、責任をもつ子ども ○きまりを守り、礼儀正しい子ども ○健康で、ねばり強い子ども
目指す学校像	○一人一人の児童を全教職員で担任し(チーム田無)、児童を成長させる学校 『西東京市教育計画』『西東京市子ども条例』を踏まえ、田無の子供たち「生活スタンダード」を徹底する
目指す子供像	○「たくましい体と心 なごやかな心 しっかりとした学び 笑顔いっぱい田無の子」
目指す教師像	○「使命感・実践力・情熱」をもち、笑顔あふれる教師 「笑顔」「育てる児童の力・守るべき人権を明確化して職務に臨む強い使命感」「可能・必要を優先し児童の姿で評価規準を設定し、全教職員が同一歩調で確実に実践する力と情熱」 ①自己研鑽 ②常に次の一手を考える前向きさ ③全教職員で児童を育てる一体感と学校としての意志の高揚

	具体的方策	学校自己評価		学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		努力目標	成果目標			
確かな学力	年5回以上の授業公開をし、校外の研究授業参観や研修会参加を3回以上行う。終業前15分間を活用したOJTを充実させる。	3	3	コロナウイルス感染拡大防止下において、実施可能な範囲で授業公開、研修を実施した。教育実習生への授業公開や研究授業の提案を分科会ごとに実施したり、全員が道徳授業を自主公開したりするなど、できる形態を模索して取り組むことができた。OJT研修では、計画的に実施することで、主任教諭を中心とした授業改善を行えた。研修機会の確保と計画立案を今後も継続していく。	3	コロナウイルス感染拡大防止下であり、休業期間もあった中で、先生方のご努力に頭が下がる。制限の多い中、校内での研修や計画立案はご苦労されたことだろう。新しい試みなどに取り組まれ、児童のために働かれた姿が分かる。
	基礎・基本の定着と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組む。	4	4	アンケートでは95%の評価を2回連続で得られた。児童が分かる授業、楽しい授業になっていくと感じた結果は大きな成果である。授業は学校生活の基本だ。今後もベア学習、小集団での学び合い等が実施できない状況下で、現在できる形態を模索しながら授業を実施していく。継続して、よりよい授業づくりのために研修を重ねていく。	4	コロナウイルス感染拡大防止下において、従来通りに実施できなかった分、より、児童が分かってくれるように先生方が努力してくださったことで、児童にとってもよりよい影響になったのではないかと考える。2か月あまりの休校を経て、児童の学力低下が心配されたが、先生方の努力で分かる、楽しい授業が行われたことが非常に安心である。主体的・対話的な授業展開は困難な状況であるが、その中で実施できることに期待したい。児童にとって95%の評価が得られたことは評価に値する。
健康な体と心の育成	毎月、特別な教科 道徳、保健、食育、安全の指導や授業を行うとともに、家庭との連携を図りながら継続的な日常の指導を行う。	4	4	第1回アンケートは91%、第2回では93%の評価を得た。保護者からは概ね肯定的なご意見をいただけている。学校と家庭がつながる取り組みを実践できたと言える。西東京市の「健康」都市宣言を受け、毎月の保健・食育・安全指導や授業を実施できた。健康教育推進は家庭との連携が大切である。今年度は和牛肉を使った給食をいただくなど、より食育についての理解を深め、生活科や社会科、総合的な学習の時間等との関連付けもできた。多岐に渡る内容を継続指導し、本校の特色ある教育の一つとして、今後も健康教育に力を入れ、健康の増進と体力の向上に努めていく。	4	児童が健康で1年間過ごせた事が何よりだと感じる。工夫された食育授業で子供たちの意識が変わってほしい。健康の大切さはどの年代も課題となる。児童にその基礎を体感してもらう教育をお願いしたい。温かな言葉と心を大切にしたい教育はとてもよい取組である。
	「特別な教科 道徳」の研究を進め、道徳教育・人権教育の充実を図り、保健、食育、日常活動等の授業を活用し、健康教育を行う。児童理解を深めるため、年間2回以上の児童個人面談等を行う。	4	4	アンケートでは96%の評価を2回連続で得られた。4%の児童、学級内における人数で考えると各学級1人に満たない数の児童が「楽しくない」と回答している。緊急事態宣言解除後、西東京スタートアップ期間では児童との個人面談を実施した。さらに年間2回以上の面談も実施している。ふれあい月間、年間2回の学校生活アンケートでは、クラスの実態を把握することに努めた。児童に寄り添うことで、今後も100%の児童が「楽しい」と回答できることを目指す。	4	学習シートに記載する振り返りに対し、先生方がコメントを丁寧にしてくださることで、コミュニケーションが深まり、先生と子供たちとの親密さが深まり、学校が楽しいと実感する児童の姿がたくさん聞けてよい。
開かれた学校	地域環境・人材(保護者)を活用・連携した学習を各学年年間6回以上実施する。	1	2	コロナウイルス感染拡大防止下において、十分な実施はできなかったものの、この事象の中では適切な実施ができたと思う。市の施策に挙げられている人権教育、SOSの出し方など、今年度実施を見送ったがん教育など、地域人材の活用を図り、児童の理解を高めていく。児童を知る喜びをより強くもって、学習に臨むことができた。また、この地域には東大農場、多摩六都科学館、田無神社など、多くの特長的な施設がある。次年度も教育課程全体とのバランスを考慮しながら、計画的に地域の人材や施設を活用できるように、ご協力を得ていく。	2	なかなか実行が不可能なテーマであったと感じる。苦悩されたことでしょう。大変限られた活動内容、活動範囲の中でも、できる限りの地域学習ができたのではないと思う。地域との関わりが少なくなってしまったことは仕方がない。
	学期に4~5回程度の保護者等の学校来校日の設定及び文書案内と学校配信一斉メール、HP更新を合わせて100回以上行う。	4	4	第1回アンケートは93%、第2回では94%の評価を得た。諸通信は印刷物での周知を基本とする。一斉メール配信でのお知らせを充実させた今年度は、さらにHPの「ひとこと日記」でも学校の様子を配信した。学校へ来校する機会が減った保護者や地域の方との情報共有の場として創意工夫できた情報発信であった。「フォト日記～たなしの子」でも各学年が情報発信し、学年便りをデジタル化して情報発信できた。次年度も印刷物を基本とし、できる範囲でデジタル化を取り入れ、学校情報を共有できるようにする。	4	HPで学校の様子がとても伝わってきて、「ひとこと日記」は、特に楽しく拝見させていただいた。ありがとうございました。学校からの情報発信が多く、保護者も地域の方も様子がよく分かりとてもよかったです。とは言え、コロナ禍により、今までにない情報発信と交流等のためにエネルギーが必要であったと思う。保護者会では、普段の生活や行事の様子をビデオを上映していただき、児童の学校生活を知ることができ、嬉しく感じた。さらに情報の紙面発行も続けておられ、有難く感じる。
特別支援教育の推進	支援を要する児童や保護者の情報を、生活指導朝(夕)会等を活用して、全職員で共通理解を図り、SC、SSW等関係機関と連携し、全校的な支援を行う。月1回以上の校内支援委員会の開催を行う。	4	4	第1回アンケートは95%、第2回では88%の評価を得た。報告・連絡・相談を確実にし、些細なことでも共有できるように今後も組織対応を進める。基本的に毎週行う生活指導夕会や年2回の生活指導全体会、生活指導上の課題や児童理解を共有した。また、ふれあい月間の取組は、いじめや児童間の問題を未然に防止したり発見したりするきっかけとなった。さらに生活台帳を活用することで、児童への対応を継続的に記録し、課題解決につながる取組みをすす。意図的・計画的に個人面談を組んだり、スクールカウンセラーとの連携を計画的に行ったりし、児童理解を深める。	4	児童一人一人の状況を常に観察しながら取り組んでいくことが求められる中、大変なご苦労があった事と考える。田無小は特に特別支援について学びやすい環境があると感じる。今後も継続した指導をお願いしたい。共生社会を築いていく根の教育となると思う。
	特別支援学級と通常の学級の交流を年間6回以上行う。また、特別支援教育の手法を活用した学習活動の充実を図る。	1	1	掲示物の位置を年度当初に確認した。ユニバーサルデザインを取り入れ、特別支援からの視点で教室、学校環境を整えた。コロナウイルス感染拡大防止下では、年間6回以上の実施はできなかったが、可能な範囲で交流が実施できた事は成果である。立案した交流計画を実施し、行事の交流に限らず、交流給食の実施や学級・学年としての交流学習や教科指導での双方向の交流を工夫していく。特別支援学級の理解や児童理解を深めたり、理解教育を実施したりし、児童の理解を深める働きかけを行っていく。	2	コロナウイルス感染拡大防止下において、通常とは異なる状況であったために評価が下がったことを残念に思う。様々な制限のある中で大変なご苦労があったこととを感じる。
業務改善・働き方改革	週当たりの在校時間が60時間を超えない。	4	4	出勤管理のもと、各自が勤務時間を超過しないように過ごせた。各教科の指導において、共有財産としてしよる教材づくりに取り組んだり、OJTを積極的に実施したりする中で、働き方改革につなぐことができた。今後も互いの様子を気にかけて、組織としての対応を続ける。また、コロナウイルス感染拡大防止下において、消毒作業など、新しい学校生活様式に応じて、勤務することができた。	4	新しい生活の中での働き方改革は大変だったと感じる。教職員の負担はいかばかりかと案じていた。柔軟に対応していかなければならない1年の中で、先生方の努力は素晴らしい。
	会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示し、取り組む。	4	4	業務改善について、適宜計画の見直しを実施し、意識改革を図ることができた。新年度計画をもとに、改善の図れる箇所を常に確認したり共有したりし、問題解決、意識改革をできるように働くことができた。次年度も継続していく。	4	先生方のご努力に敬意を表したい。ありがとうございました。